



春日井ロータリークラブ

2023-24

クラブテーマ

「CHALLENGE FOR CHANGE」

Rotary Club of KASUGAI



世界に希望を生み出そう

会 長：古屋 義夫 事務局：春日井市鳥居松町 5-45
 副 会 長：加藤久仁明 TEL：0568-81-8498
 副 会 長：野浪 正毅 FAX：0568-82-0265
 幹 事：速水 敬志 E-mail：ksgi-rc@gaea.ocn.ne.jp
 会報委員長：岡本 博貴 HP：https://www.kasugai-rc.org/
 例会場：ホテルプラザ勝川



2023年11月10日(金) 2570回(11月第1例会)

本日のプログラム

- ・点鐘
- 国歌
- ROTARY SONG
- ・ビジター・ゲスト紹介
- 国際ロータリー第2760地区ロータリー財団委員
- 米山奨学生
- ・米山奨学金授与
- ・委員会報告
- ・祝福
- ・卓話
- ・幹事報告
- ・点鐘

司会 会場委員会
 会長 古屋 義夫君
 「君が代」
 「奉仕の理想」
 会長 古屋 義夫君
 長尾 秀義君
 シャペーリニク・カテリーナ様
 幹事 速水 敬志君
 会長 古屋 義夫君

今月の祝福

会員誕生日

10日 矢野 義博君
 15日 三上 努君
 22日 下別府正樹君
 30日 速水 敬志君

結婚記念日

4日 三上 努君
 11日 近藤 太門君
 11日 小柳出和文君
 13日 久米 正俊君

夫人誕生日

1日 風岡 明憲君・久美子さん
 1日 下別府正樹君・恵実さん
 3日 速水 敬志君・文子さん
 8日 伊藤 正之君・君子さん
 26日 社本 太郎君・富志さん

アテンダンス表彰

1ヶ年 矢野 義博君
 2ヶ年 松本 俊哉君
 2ヶ年 岩村 幸正君
 9ヶ年 速水 敬志君

【和食ランチ】

先付： エリンギの焼きびたし
 蒸物： とろろ茶碗蒸し
 魚料理： 秋鯖と茄子の炒めだれ焼き
 食事： 鶏と牛蒡の炊込みご飯 さつま芋汁
 デザート： 柿胡麻掛け

	11月17日(金)	11月25日(土)	12月1日(金)	12月8日(金)
例会予定	例会 12:30~ 卓話 小川 茂徳君 和田 了司君	11月24日(金)例会変更 14:00~16:00 春日井RC 55周年記念講演会 春日井市民会館	第6回理事会 11:15~ 例会 12:30~ 祝福 年次総会	例会 12:30~ 卓話 地区RYLA委員 大橋 省吾君

先週の記録

会長挨拶

会長 古屋 義夫君

皆さんこんにちは、会長の古屋でございます。

今日は米山記念奨学の皆様にご来訪をいただいておりますので、私も米山記念奨学会のことについて、お話をさせていただきたいなと思います。どうぞよろしくお願ひします。

今日のために、私なりにいろいろと米山記念奨学会のことを勉強いたしました。私の考える米山奨学会の最大の特色は何といっても米山奨学生の採用人数と予算規模ではないかと思ひます。

2022年度の採用人数は898名であり総事業費は14億5千万円だそうです。単純に計算をしてみますと奨学生ひとりあたり年間奨学金は約@¥1,614,700-となります。つまり1ヶ月あたりの平均支給額に換算すると@¥134,558となります。

そしてまた米山記念奨学会は外国人留学生を支援している奨学団体としては民間では日本国内最大であるとのこと。

また米山奨学生の出身国は世界129の国と地域に及んでおり米山学友(もとの米山奨学生)は韓国駐日大使やスリランカ警察長官、韓国や台湾のガバナーに就任した方など世界中で活躍されているとのこと。

また皆様ご存じのように私たち春日井ロータリークラブにも米山奨学生としてウクライナからカテリーナさんが来てくれています。

そして彼女も将来、祖国ウクライナのために貢献したいと高い志をもっておられる大変すばらしい奨学生です。

私は現在ロータリーが行っている奨学生への投資は、人類のための未来への投資に繋がるのではないかと考えます。

また今日は、いろいろと興味深いお話がお伺い出来るかと思ひます、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

幹事報告

幹事 速水 敬志君

2023年10月27日、第2569回10月第3例会の幹事報告をさせていただきます。

地区米山奨学委員会、佐藤大五郎君と愛知米山学友会名誉会長リン チュン様、卓話ありがとうございました。こんなに沢山の交流事業をしている事を恥ずかしながら僕は知りませんでした。春日井クラブとしても今後も交流と皆様、米山への特別寄付を是非お願ひします。

次週予告です。

次週11月3日は休会です。翌11月10日は例会に先立ちまして理事役員会がござひます。例会プログラムは祝福と地区R財団長尾秀義君の卓話です。翌日11日・12日は地区大会がござひます。次年度は当クラブが主幹します。是非、皆さんお出かけください。11月17日は会員卓話で小川茂徳君と和田了司君です。そして11月25日は、いよいよ55周年記念講演会を春日井市民会館で行ひます。当日は例会ですので皆さん全員出席でお願ひいたします。以上、幹事報告でした

以上、幹事報告でした

出席報告

委員長 長谷川久幸君

会員	52名	出席	29名	出席率	55.7%
先々週の修正出席		休会		休会	

ニコボックス報告

委員長 長谷川久幸君

- 平素より米山事業にご協力いただきありがとうございます。本日はよろしくお願ひします。 佐藤大五郎君
- 地区米山奨学委員会 佐藤大五郎君、愛知米山学友会 名誉会長 林 瓊様 古屋 義夫君
- 米山記念奨学委員会 佐藤君、米山記念奨学学友会 林様、ようこそ!! 速水 敬志君
- 卓話を聞く楽しみで。 宅間 秀順君
- 運動会は各園全て好天に恵まれ感謝しています!! 謝辞!! 小川 長君
- 日本特有の米谷奨学制度の益々の発展充実を祈ります。 松尾 隆徳君
- いよいよ日本シリーズ楽しみで。 青山 博徳君
- 佐藤さん、お久しぶりです。去年は大変お世話になりました。これからも宜しくお願ひ致します。 下田 育雄君
- 林さん、佐藤さん、ようこそ。 和田 了司君
- いつもありがとうございます 藤川 誠二君
- 本日の卓話を楽しみにしています。 川瀬 治通君 清水 勲君 近藤 太門君
- 加藤 茂君 北 健司君 岩村 幸正君
- 鈴木 克幸君 久米 正俊君 三上 努君
- 長谷川久幸君 加藤 宗生君 場々大刀雄君
- 筒井 康広君 成瀬 浩康君 梅村 守君
- 中澤 一君 矢野 義博君 菱川 一馬君

○ご協力ありがとうございます。

ニコボックス委員会

卓話

国際ロータリー第2760地区

米山記念奨学委員会 佐藤大五郎君

平素より米山記念奨学事業に対し、ご理解とご支援賜りまして誠にありがとうございます。

まずは米山記念奨学事業の概要から説明いたします。ロータリー米山記念奨学事業は、日本のロータリーが作り育てた独自の事業で、34地区、全地区が参加する多地区合同プロジェクトです。1952年に事業が始まって以来、一貫して、日本で学ぶ外国人留学生を支援しています。「公益財団法人ロータリー米山記念奨学会」というのは、この事業をおこなうために、日本のロータリーが協同して運営する奨学財団で、財源はすべてみなさんからのご寄付で成り立っています。この奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。今はコロナで難しい部分もありますが、米山奨学生にはロータリー活動に参加してもらい、交流することを大切にしています。カウンセラーになると、ロータリークラブ

の活動そのものに熱心になる方も多く、家族ぐるみの国際交流を体験することができます。

実際に、カウンセラーを終えた方の8割は「また引き受けたい/引き受けてもよい」と、回答しています。終戦翌年の1946年、「日本のロータリーの父」と呼ばれる米山梅吉氏が亡くなりました。3年後の1949年、戦争のため解散を余儀なくされていた日本のロータリーが、国際ロータリーへ復帰します。戦後の落ち着きを取り戻すにつれ、梅吉氏の功績を永遠に偲ぶことができるような、何か有益な事業をやるのではないかという声が大きくなってきました。当時の日本はまだ食糧事情もはかばかしくなく、会員たちは「クラブへ行けばお茶を入れてもらえる」と、弁当を持参し、ストーブを囲みながら熱心に議論をしていたそうです。そして1952年、東京RCが「米山基金」の構想を発表しました。これは、アジアから優秀な学生を招いて学費を援助し、二度と戦争の悲劇を繰り返さないために“平和日本”を肌で感じてもらいたい、というものでした。この「米山基金」が、わずか5年で日本の全ロータリークラブの共同事業となり、1967年には財団法人ロータリー米山記念奨学会が設立されました。米山奨学事業は、日本のロータリー独自の活動として作られ、発展してきました。このため、国際ロータリーとは一線を画す状況が続いていました。そうした関係が次第に変化してきたのは2000年に入ってからです。2004年11月のRI理事会では、「奨学金の授与を通し、世界理解と平和に貢献されている財団法人ロータリー米山記念奨学会を称賛する」とされ、ロータリー米山記念奨学会が「多地区合同奉仕活動」（現在は多地区合同活動）の手続きを取ることに、ロータリーの名称やロータリーマークを今後も引き続き使用することを認める、ということが決議されました。2007年には全34地区からの同意を得て、RIの定める多地区合同活動として、すべての手続きを完了しました。そして2014年1月のRI理事会では学友の定義が拡大され、米山学友も「ロータリーの学友」となりました。これを受けて、2016年のソウル国際大会には世界中から多くの米山学友が集まり、ロータリーファミリーの一員として参加したのです。米山は、外国人留学生を対象とする民間の奨学金では、国内最大規模です。2021学年度は、日本全国で910人（前年度883人）が採用され、各ロータリークラブでお世話をいただいています。累計では世界129の国と地域から2万2,267人を支援しています。米山奨学生の採用は、全国統一の基準があります。「将来の目標・留学の目的がきちんとしているかどうか」「交流への熱意があるかどうか」「人柄の良さ」「コミュニケーション能力の高さ」詳しい評価項目は公表していませんが、全国統一の評価項目を使って、各地区の選考委員会が面接選考をしています。もちろん、応募書類の審査もしています。

ロータリー米山記念奨学会は2012年に公益財団

法人となり、より一層の公平性・透明性を確保するため、このように全地区共通の選考基準で選考をしています。そのうえで、例えば「国籍や県別割合の調整」「地区独自に実施するグループディスカッションの評価」など、地区の裁量を加えて良いことになっています。米山奨学金はお金に困っている留学生の経済支援ではありません。珍しい国だから、生活に困っているから、学校の成績が優秀だから。いずれも、ただそれだけでは米山奨学生に合格しないのです。

次に、皆様からいただきました寄付金のご報告をさせていただきます。米山奨学会への過去20年間の寄付金ですが、2001年には約17億円あった寄付金は、近年ではだいたい13~14億円となっています。米山には、クラブから会員数分を納める形の「普通寄付金」と、それ以外に、個人・法人・クラブから、任意で支援していただく「特別寄付金」の2種類があります。いずれも奨学事業に使用されるものですが、特別寄付金の方は、寄付をした個人や法人の実績となり、表彰の対象となります。昨年度、2022-23年度の寄付金収入は14億2291万円（前年度13億4579万円）と、その前の年度より7700万円ほど増えました。有価証券の配当金は、事前の取り決めにより、奨学金にのみ使用しています。みなさまのご寄付はほとんどが奨学金に使われていますが、奨学金以外、例えば地区や世話クラブへの補助費、事業部門の職員人件費などにも一部使われています。米山奨学事業は、規模が非常に大きい事業であるにもかかわらず、管理費は支出のわずか3%です。超低金利時代ということもあり、昨年度のように管理費が利子収入を超えてしまうこともあります。基本的には、利子収入で賄っていくよう努めています。

続きまして、奨学生がどのように選考されているのかを少し説明させていただきます。2760地区は全国の地区と比較しても多い受け入れ地区となります。（豆辞典9-10ページ）6月に地区ごとの割り当て数が決定をいたします次年度の寄付金収入予想に基づき全体採用人数が決定。

各地区別の割り当て人数、地区別の指定校の情報が送られてきます。2760地区51人7月に指定校決定、米山記念奨学委員会は指定校選定委員会を開いて指定校を選定。当奨学生にふさわしい学生を推薦していただくために学校説明会を開いています。8月、募集スタート 学内選考 各指定校内で学内選考後、10月15日を締め切りに推薦者の申し込みをしていただきます。12月、書類選考 面接官の選定 各行より奨学金希望学生からの申込書が送られてきます。本人の経歴・学歴、研究計画書、小論文などを自筆で書いていただいております。指導教員からの推薦状、成績表などもつけられています。その申込書を34地区共通の「選定基準と評価表」を用いて評価いたします。

地区面接官の選定
同時期、地区米山記念奨学委員を中心に面接官を選

定します。大切な奨学生を選考する上で「面接官対象オリエンテーション」を開催し、面接官としての心得を習得し面接にあたります。米山委員だけで足りない場合にはガバナーはじめ地区役員の方にもお願いをいたします(昨年度 30 名)

面接官の手引きに「どんな奨学生を採用したかで奨学事業の価値が決まる」とあります。とても責任重大なお役目であります。1 月、面接試験 昨年度は申し込み人数が例年より少なく、89 名でした。(例年 120 名くらい)6 班に分かれ面接をいたしまして、各班午前午後で 15 名の面接を終了いたしました。

32 名 男 15 女 17 学部 15 修士 12 博士 4 医学 1

これも全国共通の「選定基準と評価表」を元に評価します。全員の面接が終わった後、選考委員会にて 本当にこの学生でいいのかと全面接官が一堂に会して検証されます。責任ある我々地区委員としましても、奨学生の募集選考は、場当たりの指定校選定や、数合わせの奨学生選考にならないように心がけております。また、委員会としても、前もってどんな奨学生を支援したいかを話し合い、合意し、ロータリアンに奨学生支援の意義や感動を具体的に伝えられるような学生を選考するように心がけております。

「選定基準と評価表」についてご説明いたします。ロータリー米山記念奨学会は 2012 年 1 月 4 日をもって公益財団法人となり、公平性・透明性が求められるようになりました。そこで 34 地区共通の「選定基準と評価表」が必要となりました。まず、奨学生の募集は指定校推薦制度によって進められます。各地区委員会が学校を指定し、優秀な学生を推薦してもらい、その学生を地区のロータリアンが選考基準と評価表を基に面接・選考するシステムです。

かつては「ロータリークラブ推薦制度」がありましたが、推薦欲しさにロータリアンに近づく不届きな応募者が出るなどの問題から 1998 学年度から廃止され、2002 学年度採用から指定校推薦制度が導入され現在に至っております。

ロータリー米山記念奨学事業の使命は、留学生の優れた学業の達成を支援し、同時にカウンセラーや世話クラブとの交流を通じ、ロータリー精神を学び、国際理解を深め日本と母国との架け橋となるなど国際親善に尽くす人材を育てることにある。

そのために求められる米山奨学生の資質は「学業」「異文化理解」及び「コミュニケーション能力」における熱意や優秀性である。

■学業に対する研修の目的、目標を明確にし成果を上げる努力をしているか？

■異なる文化、習慣などを理解する努力をしているか？

■言語のみならず、人間関係における円滑なコミュニケーションを築き、自己の確立と共に他社を受け入れる柔軟な姿勢をもつかどうか？

このあたりを意識し選考材料の一つとしております。よくある質問とし国籍が偏っていないか？ と

いうことを言われます。結果から試みて留学生の国籍比率に比例してしまうので、どうしても現在留学生の多い国籍の学生が多くなってしまいます。

以上、短い時間ではございましたが、米山記念奨学事業のご説明でございました。

今後とも米山記念奨学事業に対し、ご理解とご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

卓話 国際ロータリー第 2760 地区 米山記念奨学 委員会名誉会長 林 瓊様

皆さんこんにちは。2760 地区米山学友会名誉会長を務める林と申します。今日は春日井ロータリークラブで貴重な時間をいただき、卓話の機会をくださいまして、ありがとうございます。

まず簡単に自己紹介させていただきます。三重大学院の 2 年間米山奨学金のお陰で実験多い農芸化学専攻の私には無事修士課程を終了することが出来ました。この場を借りてロータリーの皆さんに深くお礼を申し上げます。誠にありがとうございました。大学院卒業後、大学院で習得した専門知識を生かし、食品メーカーの研究開発部に勤め、一定の成果を収めることが出来ました。2003 年 1 月から天野エンザイムに転職、マーケティング本部に所属、海外ビジネス、中国ビジネスメインに架け橋の役割を果たしました。中国ビジネスを関わりながら、日本国内製薬会社、食品メーカー、アジア諸国、オセアニアに自社製品である医薬品、食品の原料を販売する営業活動もしてまいりました。スペシャリティ製品販売のスキルを取得することができました。また中国で製造会社設立にあたって、営業の仕事しながら、提携先の選別から合弁会社、最終的に独資までの買収プロジェクトに参加、営業と違った厳しいやり取りを含む経営の観点から物事を考えるようになった貴重な経験もさせて頂きました。その後海外安定生産出来るよう製造会社に赴任し、経営者としての立場から企業利益を出すため、生産現場の中国人管理体制の構築、人員削減などに手かけて、生産コスト削減で、会社経営者として製造企業の再建成功に導いた結果を残しました。このように長い間会社の中国ビジネス展開、拡大に貢献し、微力ではありますが架け橋の役割を果たして、自分に与えられた仕事を通して会社奉仕、社会奉仕をしてまいりました。現在長い海外ビジネス経験を活かして海外コンサルティング業を行っております。

米山奨学金の最大の特長は「世話クラブ・カウンセラー制度」です。米山奨学生にはロータリー活動に参加してもらい、交流することを大切にしています。そして米山学友になっても交流活動も続けてますので、米山学友とロータリーの繋がりが永遠に出来て、そして社会奉仕している姿も身近で見られることがほか奨学制度のない成果だといえます。また米山学友同士が、異国である日本の地で、文化の違いや経済的にも苦しい時に支えられた米山奨学事業との運命的な出会いだけではなく、米山奨学生として経験したことは、米山学友の「絆」は時代を超え、

民族を超え、国境を超えて強く築かれます。

2760 地区米山学友会は米山奨学委員会のご指導、ご支援の元、26 年前に米山学友会が発足しました。仕事で社会奉仕しながら、ロータリーとの繋がり、学友同士の絆を深める役割を果たしています。今日この機会に米山学友会の活動を振り返りながら米山学友の絆及び米山学友の社会奉仕についてお話させていただきます。

まず米山学友会は米山委員会と共同で毎年開催される米山イベントを紹介します。また 2760 地区米山学友会と同地区米山以外のロータリー組織、ロータリーファミリー、またほか地区米山学友会の交流もしてまいりました。ほか単独主催で食事会、相撲観戦、オリンピック観戦を実施。東日本大震災時に寄付金、2020 年から 3 年連続で養老施設にマスクを寄付。

米山学友の集まりから世界米山大会の誕生の話。

2010 年 7 月 17 日中国第二回米山学友会総会が中国上海万博期間中に盛大に開催されました。日本全国からロータリアンと家族を含め 250 名、米山学友 170 名、総勢 420 人参加の大イベントです。米山奨学事業はこれまでに支援した奨学生は 129 の国と地域、22267 人です。その内中国人出身者は最大 34.6% を占めています。2760 地区、2630 地区米山奨学委員会、中津川ロータリクラブのロータリアンと家族、そしてこの 2 地区の学友を含め、総勢 45 名一緒に学友会総会を出席。上海万博、上海市内観光、蘇州観光も一緒に同行しました。

その後、2016 年韓国・ソウルロータリー国際世界大会での米山学友の集まり、2017 年熊本での第一回米山学友世界大会、2018 年財団設立 50 周年記念式典にも参加。

2019 年 7 月 25 日～7 月 29 日（公財）ロータリー米山記念奨学会の齋藤直美理事長をはじめ、2760 地区米山委員、米山学友・奨学生など総勢 20 人でモンゴル・ウランバートルへ、モンゴル米山学友会主催第 2 回世界大会に参加してきました。

まず、ジャンチプ・ガルバドラッハさんが理事長を務める新モンゴル学園を見学。続いて米山学友世界大会「絆 in モンゴル」に参加。式典には、世界 16 の国と地域から米山学友とロータリアンなど 400 人以上出席されました。式典にはモンゴル米山学友が感謝の気持ちを込めて作った歌「米山の絆」「僕ら同胞、心は一つ 共にいると、幸せいっぱい」も披露しました。感動と感謝の気持ちが会場中に広がり、大成功の大会でした。

2760 地区米山学友は各行事に積極的に参加することによって、他地区や海外米山学友同士の交流を図り、友情を深めて、米山学友独自のネットワークもできています。

続きまして、米山学友の社会奉仕について紹介します。

韓国出身の米山学友、権哲賢(クォンチョルヒョン)さんは、第 18 代駐日韓国大使として就任し、「日本

と韓国の“近くて遠い関係”を“近くて近い関係”にすることが自分のロータリーへの恩返し」と語っています。

中国北京で弁護士として活躍している姫軍(ジジュン)さんをご紹介します。

ジジュンさんは北京大学で大学卒 東京大学で修士学位、ハーバード大学で博士学位取得、その後北京で国際弁護士として社会奉仕しています。ジジュンさんの顧客の 6 割は日本企業です。特に 2007 年、ヤマハ発動機を原告とする商標権侵害訴訟では、渉外商標権の損害賠償額として過去最高の 830 万円(1 億 2～3 千万円)を勝ち取り、日本でもニュースで報じられました。ジジュンさんはまた、2007 年から毎年 50 万円を連続で米山奨学会へ寄付しており、謝礼など含めトータル 800 万以上の寄付がしています。

ジャンチプさんは世話クラブのロータリアンの支援の元で、モンゴルで「新モンゴル学園」設立、幼稚園から大学まで日本式の一貫教育体制を採用し、国際社会で通用する人材を育てています。卒業生のうち 1/3 は海外の日本やアメリカ、中国、イギリスなどに留学させています。2020 年度まで総計 2000 名の卒業生です。モンゴルの教育分野、国際社会への貢献で成功を収めています。モンゴル大統領や日本の安倍首相夫人が訪問するほどの有名校で、ジャンチプさんは、最初ロータリアンの支援を受ける側から、自らもロータリアンとなり、モンゴルの若者の教育を支えるという、支援側に回って、国際社会で架け橋の役割を十分果たせた米山学友です。

今年アメリカ在住、中国出身の米山学友周順圭さんが米山記念奨学会に 50 万ドルおよそ 7000 万円の大口寄付がありました。周さんは東京大学で博士を取得後渡米、シリコンバレーのハイテク業界では大成功を収めた人物です。周さんの夢は中国・日本・アメリカの優秀な若者たちの架け橋になることです。人を育てるためにお金を使いたいと 3 つの国の若者が仲良くなってほしいという強い思いで、数年前から中国の清華大学に複数回、日本の東京大学に複数回、アメリカスタンフォード大学ほか教育機関にそれぞれ大口寄付しています。今回周さんは生まれ育った中国、専門教育を受けた日本、そして仕事での成功を収めたアメリカの架け橋となって、それぞれの国への恩返しの気持ちを込めて、米山の寄付が実現されました。まさにロータリーの目指す「平和と国際理解の推進」そのものです。ロータリーからの社会奉仕と国際奉仕の真髓をつらぬく米山学友の理想像ではないでしょうか。

2011 年、東日本大震災が起きたとき、発生直後から日本の無事を願うメッセージが相次いで寄せられ、国内外の学友から 760 万円の義援金が送られました。米山奨学会への寄付は、ロータリアンだけではありません。学友からも、義援金以外に、累計 1 億 1000 万円以上の寄付をいただいています。こうした「寄付」という形での恩返しは、他のプログラムではあ

まりみられない、米山学友ならではのものだということ。

大成功している米山学友がいますが、それより皆さんが奨学金を頂いたときの感謝の気持ちを忘れず、勉学や仕事に励んで充実した日々を送って、仕事を通じて社会奉仕、国際奉仕を実現、その上、日頃、笑顔や優しい言葉で周りの誰かを励ましたり元気づけたり、また、困っている方に支援の手を差し伸べることができれば、社会奉仕で恩返しになるのではないかと考えております。「米山」の誇りと縁に感謝し、今後も米山記念奨学事業の発展を祈念し、世界平和のため、米山学友の輪をさらに広げて行きたいと思っております。私個人としても、長年の海外ビジネス経験を活かして、日本と中国の架け橋として社会奉仕し続けて行きます。またロータリーのみなさんにも引き続き米山奨学事業を支援していただきますようお願い致します。

学友会はロータリアンの支えによって、成り立っています。このご縁を一生大切にしていきたいと思っております。以上をもちまして、2760地区米山学友会会長として、卓話を致します。ありがとうございます。



委員会報告
出席・ニコボックス委員会 中澤 一君



クラブ奉仕委員会 委員長 川瀬 治通君



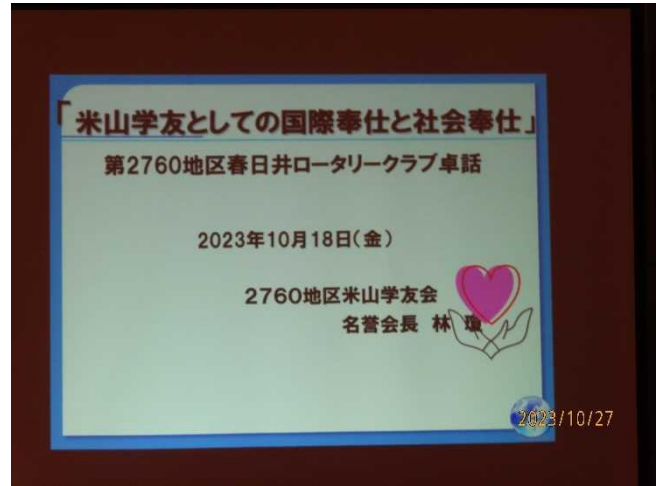
卓話者紹介 会長 古屋 義夫君



会長挨拶 会長 古屋 義夫君



2024-25 地区大会説明 成瀬 浩康君



国際ロータリー第 2760 地区 米山記念奨学委員会
佐藤 大五郎君



国際ロータリー第 2760 地区 米山記念奨学委員会
名誉会長 林 瓊様



幹事報告 幹事 速水 敬志君



クラブ奉仕委員会 合同懇親会



55周年記念講演PR 春日井ライオンズクラブ

春日井RC 55周年で市にベンチ3台寄付

春日井ロータリークラブ(RC)が設立55周年を記念して、春日井市にベンチ3台を寄付し、17日に市役所で贈呈式が開かれた。

式で古屋義夫会長(66)は「市制80周年とクラブ設立55周年を記念し、市民の憩いのためのベンチを寄贈する」とあいさつ。石黒直樹市長に目録を渡した。

ベンチは長さ約1・5メートル、3人ほどが座れる大きさ。

ベンチを寄贈し、石黒市長(右から2人目)から感謝状を受け取った古屋会長(左)ら。春日井市役所で。

さ。今月下旬に、同市八田町内のふれあい緑道に設置した。

石黒市長は「設置場所の近くには市民が制作したハニワがあり、市民が散歩やジョギングをする。皆が集う場所になるのではないかと述べて、感謝状を贈った。

10月31日 中日新聞 掲載